

「相互啓発による 創造的学力育成カリキュラム」 学びのイメージ

先輩が後輩をクラスでサポートするチューター制を導入。4年間を通じて何を学ぶのかを常に意識し、探求力、論理力、表現力を身につけ、卒業後のキャリアに活かしていきます。



詳しくはHPをご覧ください。
<http://ssgp.doshisha.ac.jp/>

特色・個性ある優れた大学の取り組みを、文部科学省が「大学教育改革支援プログラム」に選定しているのをご存じでしょうか。同志社大学が採択を受けた5つの取り組みの内、今回は社会学部を紹介します。先輩が後輩をサポートするチューター制によって、4学年が互いに高めあう学びのコミュニティをめざします。鶴飼孝造教授に話を聞きました。

**チューター制が
生む交流**

社会学部恒例の新生歓迎キャンプでは、教員そつちのことで、サポートの先輩学生に人の輪がで、質問や相談が集中します。その様子を見て授業にも活かさないだろうか、と考えたのが、このプログラムの柱であるチューター制導入のきっかけです。大学の授業は方通行になりがちで、他学年との交流もサークルやクラブ以外では少ない。その断面をつなぎ、新しいコミュニケーションの回路を作りたかったのです。

チューターは後輩20人に1人の割合で、1年次生の導入教育であるファーストイヤーセミナー、2・3年次生の各専門基礎科目など、参加体験型の授業に入ります。4年次生ゼミからは「卒論幹事」を選んで同学年のまとめ役を任せます。

当初は「何をしたいかわからない」「指示がほしい」という戸惑いの声もありましたが、最近では授業の前後に「質問のある人」と声かけしたり、時間外にレポートを指導したりするチューターの姿も見受けられます。そうやって自分で役割を見つけ、人と関係を築くことが、シネリックスキル(社会人基礎力)につながります。学生目線で改善点に分かるので、教員にもいい刺激になっています。

知識や考えを自分の言葉で表現できる力を育成 ——社会学部ならではの発信力を鍛える



社会学部教授

鶴飼 孝造
(うかい こうぞう)

創造的学力とは

私が考える創造的学力とは、「知識や考えを自分の言葉で人に表現できる力」です。チューターを結び目として4学年が縦につながり、互いに高めあひながら、人の意見を聞き、人をまとめ説得する力を授業の中で身につけてほしい。そして、ホームページや出版討論会で、社会学部生ならではの発信力を鍛え、社会に出て「きらりと光る人」に育ってほしいですね。

次回は12月5日(土)の朝刊に掲載予定

チューターはGPサイトの「相互チュータリングシステム」に活動報告や改善点を書き込み、ノウハウを蓄積しています。卒論の要約や担当教員のコメントをつけた卒論データベースも、「ここまでやるか」というほど学外にも公開していますが、学内でも隣のゼミが見えれば相互啓発につながり、全体がレベルアップします。後輩のお手本にもなると思うのです。



1年次生向けファーストイヤーセミナーの様子。レポートの書き方やディスカッションの方法を学ぶ。

同志社大学の
教育力
Power of Education
Doshisha University
Series **3** 全5回

2008年度 文部科学省選定
「質の高い大学教育推進プログラム
(教育GP)」採択
相互啓発による
創造的学力育成カリキュラム
～学生による評価と
相互チュータリングの試み～